中学校以来、４５年ぶりに絵画に挑戦！

緩和ケア“虹”のロゴマークをデザインして下さったデザイナーが、緩和ケア“虹”の９０才のご高齢の利用者の絵画指導に、月一回ボランティアで来て下さることを知った。旅先などで、写真ばかりでなく、さっと景観をスケッチできるようになりたいと常々憧れていたので、１００円ショップで色鉛筆、水彩クレヨンを勝手に用意し、今日厚かましくにわか利用者（？）になり同席。

ご高齢者へのデッサンの指導を側で聞きながら、和流で挑戦！午前、午後の計１時間半にしては、４５年ぶりにしてはよくかけたと自画自賛したが……。

やはり後で、先生曰く、「デッサンには消しゴムをあまり使わないように、軽くデッサンするように」。

→　右手に鉛筆、左手に消しゴムで、頻回に両刀使い。

「形を見るのでなく、『美味しそうだなあ』という気持ちを大事にデッサンすること」。

→　陰影強く、どうしても形に拘っている。

「濃くデッサンすると、色をつけると濁るよ。これはデッサンでなく、鉛筆画」。

→　これじゃあ、色つけできそうにない。

「サインの場所は自由だけど、右下が多いよ」 →　自己満足し、悦に入って先走って左に。

どうも、絵画教室（？）でも相変わらずの我流で勝手気ままにマイペース。これじゃあ、上達しないよね（反省……）。

ご高齢者は、先生の指導を素直に聞いて、柔い、軽いタッチで見事にデッサン。次回は、油絵の具で色つけに進むとか。それに引き替え、私は……、何事も練習、練習。

いつも気忙しい気性の自分が、“虹”の家のゆったりとした時間の流れを、にわか利用者の立場といえ感じたことが、何よりの収穫であった。この練習の中で、ゆったりと、おっとりと物事に向かうことを少しでも身につけばと願っている。

そう願っていながら、「４５年ぶりにしては、上手いでしょ！」と周りのスタッフに見せびらかせると、「厚かましく、強く同意を求めるところが、阿部さんらしい！」と云われちゃった。おっとりの練習には、今日はならなかったよう……。

（後日、当記事を見た先生から「なかなか素敵ですねー。とても４５年ぶりとは思えません！」とのメールをいただきました。えへへ～、先生から、お世辞か、おだてでも、やはり誉められる（？）と嬉しいもの。）

（注：絵のコピーは、厚かましく次Ｐに。）　　（2005 年 2 月 10 日　記）

2005 2/10